

地域特性を生かした市街地活性化



鹿児島市役所では名物のかんとお茶が。

その中の一つが「ア
エールタワー」。鹿児
島中央駅周辺に新た
にぎわいができる一
方で、この南部地区
は建物が老朽化し、商
業の活力が低下し取
り残

す。
増進の5つに区分し
当初の63事業を、78
業にして推進してい
ま

③南九州随一の中心市街地の商店街活性化
を目標として、市街地の整備事業、
都市福利施設の整備、まちなか居
住の推進、商業の活性
化等、公共交通の利便
増進の5つに区分し、
当初の63事業を、78
業にして推進していま
す。

②九州新幹線の開業効果を活かし
た観光の振興
①まちなかのにぎわい創出と回遊
性の向上

第二次世界大戦で、市街地の93%
(1079軒)を焼失。戦後復興土
地区画整理事業で1044軒を施行。
現在の中心市街地活性化基本計画
は鹿児島駅から鹿児島中央駅周辺ま
での368軒。計画期間は平成19年
12月から25年3月までの5年4ヶ月
間。

視察内容は①中心市街地活性化事
業 ②再開発事業「アエールタワー」
の概要と現地視察。
まず、鹿児島市の中心市街地活性
化事業に関する取り組みについて、
中心市街地活性化推進室から説明が
ありました。

厚木市は93年に22万人が住んでい
ますが、鹿児島市は、面積547km²
に60万人。今年3月12日、九州新幹
線の鹿児島中央駅・博多間が全線開
通し、昨年12月開通した青森から2
千キロが新幹線つながりました。
新大阪から3時間45分という近さ
になり、人・モノ・情報の流れが変わ
ったようです。今年は例年以上に視察
の受け入れが多いとのこと、私達
が行った日は、隣室に市川市とあり
ました。

市街地まわりの推進課の説明と、
現地視察。タワーの屋上には、桜島
の砂が。

鹿児島市の議会事務局の方や担当の
方にいろいろお聞きしましたが、丁
寧に教えていただきました。感謝で
す。

都市経済常任委員会では、11月7・
8日の2日間、鹿児島市の中心市街
地活性化事業を視察してきました。

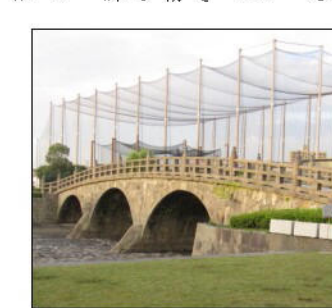


両手に火災報知機を持つあゆこちゃん

雨の日はしるし車体験を見る
11月5・6日にぎわい爆発フェス
ティバルが開催され、市内外からの人々
でにぎわいました。
6日には市役所西側の駐車場で、消
防署のイベント。あゆこちゃん、火
災警報器を取り付けようとの呼び掛
けをしていました。

話題あれこれ

鹿児島市は、近くにあまり大きな
まちもなく、西郷隆盛や篤姫など、
歴史に興味がある人にはたまらない
ところかもしれません。桜島は今年、
すでに800回以上噴火しているそ
うです。観光資源が豊富です。翌朝
一人で市電に乗って市街地を散策し
た時も、煙が上がる桜島が朝日に輝
いていました。



鹿児島市の石橋公園では3つの石橋が保存されています。

市民のみなさんから「まち」をど
うにかしてほしいとの要望は、大変
多く聞かれます。再開発、市街地活
性化は一朝一夕にできるものではあ
りませんが、基本計画を立てつつ、
現実に行えることをやってみよう
という、バランスを取りながら進める必
要性を改めて感じました。

厚木の特性を生かした中心市街地
を含め、厚木の活性化を皆で考え
ていきたいと思います。

起震車やしるし車の体験もありま
した。はしるし車は子ども対象で、保護者
なら大人も乗れますとのこと。
この時は雨が降りそうでしたが、雨
が降ったら危ないから乗せないそう
です。「実際は雨が降っても、はしるし車
に乗るんですものね」と間抜けな質
問をしたら、若い消防職員にこやか
な顔がきゅっと引き締まって「もちろ
んです。現場ではどんな時でも」と。
そのきゅっと答えた様子に、市民の
命と財産が守られるのだなあ、安心
と感謝の思いをさらに強くしたのだ
でした。

以前、事故で救急車が来るときに通
りかかって、消防職員の皆さんの仕事
を間近に見た事を思い出しました。
一人ひとりが、火事や事故を起こさ
ないように気をつけ、災害に備えるこ
ともが必要です。
地域で活動する消防団員も、募集し
ています。

ら変わっていくのだということを実
感。鹿児島だけではなく、他の自治
体と厚木との違いを考えざるを得ま
せんでした。